

5 様式 (外部指導者派遣事業)

1 実践の概要

テーマ	『 大事な 大事な命を 守るために 』
外部指導者	秋田大学 地域創生センター 准教授 鎌滝 孝信 氏
実施日時	10月20日 (月) 10時00分から 10時45分まで
実施場所	ウェルビューいずみこども園 ホール
参加者	園児 39名 (4歳児19名、5歳児20名)、職員 8名、 保護者 5名、地域の方 7名

2 実践内容

次第・講義内容等	時間 (分)	準備・留意事項等
1 こんにちはの会	5	<p>【準備】スクリーン・マイク・ プロジェクター・会議用机・シート</p> <p>【留意事項】</p> <p><u>事前</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○指導者の方との連携を図る。 ・本時の活動の意図・めざす子ども像・めざす大人の意識・事前事後活動などを伝える。 ○地域の方の参加を募る。 ・取り組みの内容や前回の様子を、園だよりやポスターで知らせる。 ・電話または直接にご案内をする。 ○職員で学びを共有するとともに園児の関心を高める。 ・子どもの期待・思い・考えを大切にされた援助や指導について職員間で学び合う。 ・子どもたちの関心が高まるように、事前・当日・事後の重点テーマに添った意図的・継続的な取り組みを見い出す。 ・子どもたちが鎌滝先生に親しみがもてるように、前回の取り組みの様子を写真で見せて話し合う。
2 パワーポイントでの説明 ・鎌滝先生の自己紹介 ・日本でおきた地震の分布、 秋田県でおきた地震の分布 ・地震時におこる近くの危険 ・津波と波のちがいがい ・地震や津波から命を守るためには	30	
3 実験 ・津波で人が被害を受ける様子	10	<p><u>当日</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本時の活動を深める。 ・より理解が深まるよう、鎌滝先生の説明に言葉を添えたり、気付きのポイントや目のつけどころを示す。 ・知る喜びや驚きを共感することで学ぶ楽しさを感じ、興味・関心が膨らむようにする。 ・見た様子を言葉にして返すことで、実験での学びの理解が深まるようにする。 ・「聞いてみたい」「教えてほしい」の気持ちを引き出すよう言葉をかけたり、つぶやきに気付くようにする。 ・質問や回答を興味をもって聞き、そこでの学びをみんなで共有できるようにする。 ・保護者や地域の方の表情や思いを受け止めながら、一緒に学ぶ意識や知りたいこと、疑問に思ったことを発信できるように配慮
4 質疑応答 ・園児から、地域の方から、職員から	15	
5 ありがとうございましたの会	10	

		<p>する。</p> <p><u>事後</u></p> <p>○クラスごとに防災教室を振り返り、学んだことをみんなで共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感じたこと、気付いたことなどを話し合い、命を守るために大事なことを再確認する。 ・話し合いを通してみんなで共有できた学びを「お家の人にもおしえよう」と思えるようにする。 ・園だよりで当日の様子を保護者や地域の方にお知らせする。 <p>○職員間で今回の学びを振り返り、防災意識を高める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の防災訓練の内容を見直したり、防災教育年間指導計画の改善点を見出し今後につなげる。 ・保護者や地域の方々との連携の重要性を共通理解し、取り組み方を工夫する。
--	--	--

3 参加者の感想

<p>児童生徒</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・津波に流された様子をスクリーンで見て、本当にこうなったら怖いと思った。お家も壊れて悲しくなった。 ・地震が起きたら帽子がなくても、手やカバンで頭を守ることがわかった。 ・『おかしなもち』の約束を忘れないで、お家の人にもおしえたい。 ・普通の波と違って、津波は怖いと思った。 ・防災訓練のとき、真剣に逃げようと思った。 ・鎌滝先生におしえてもらったように、地震や津波なんかで絶対死なないという気持ちを持つと思った。
<p>保護者 地域住民</p>	<p><u>保護者</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震が起きたらどうするのか、何に気をつけるのかなどを話してくれ、しっかり聞いてきたんだなと感心した。 ・家で物が落ちたり、倒れてきそうなところを調べた。絶対に危ないと感じていたところに気付いて「一番に危ないと思う」と話し、驚いた。子どもにもよくわかるように話して下さったのだと思った。災害が起きたとき、しっかり考えて行動できるのではないかと、心強く感じた。 ・地震はいつ起きるかわからないから、起こったときにちゃんと逃げれるように避難訓練が大切なこと、テーブルの下にもぐったら、テーブルの脚をつかむこと、寝ているときに物が落ちてきたり、倒れてこないようにしておくことなど、防災教室のことをたくさんおしえてくれた。よく覚えてきたと感心した。避難訓練の意味がわかり、怖がらずに参加してくれればと思う。 <p><u>地域住民</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波の威力に驚いた。大震災を思い出し、今の気持ちを忘れずにいたいと思う。 ・子どもたちにも大人にもわかりやすい内容で、興味深く聞くことができた。 ・このように学ぶ機会があることを、もっと地域の人に知らせて参加を呼びかけたい。

4 成果と課題

成 果	<ol style="list-style-type: none">1 会の始まりに、自己紹介をしてくださったことで、鎌滝先生への親近感とこれから始まる話への興味・関心がふくらませることができた。2 スライドの写真や絵を用いての説明と、子どもの発言や表情を丁寧に受け止めて進めてくださったことで、「聞きたい」「知りたい」の気持ちを一人一人が持つことができた。3 この度の体験では、「心」「イメージ」に力点をおくことの大切さを感じた。そのうえで毎月の防災訓練の取り組み方や地域との連携の在り方を見直していこうという気付きにつながった。4 子ども・保護者・地域の方・職員が一堂に会し学び合うことで、お互いの存在を意識し、それぞれが連携の必要性を感じる事ができた。
課 題	<ol style="list-style-type: none">1 見て聞いて感じて学んだことを実践に活かすことが大切である。様々な想定での防災訓練などを見ていただき、ご指導いただくような機会をつくりたい。2 保護者や地域の方、地域の団体に園から発信し、協力体制の在り方について学び合う機会を継続的に設けることで、お互いに自助・共助における防災意識を高められるようにしたい。また、防災に対する地域での取り組みに保育園職員も参加させていただき、学びを深めたい。3 より多くの人に関心をもってもらい、誰でも参加できる防災教室であることの周知のしかたの工夫をする。4 本園は、福祉複合施設の中にあるため、(1)保育室での避難体制、(2)避難経路での移動のしかた、(3)ホールでの待機のしかた、(4)戸外への避難のしかたなどの段階ごとに無駄な動きや危険はないかを見直す。また、災害が起きたときは他施設との連携を図ることから、施設全体の中でのこども園の避難のしかたを考える必要がある。5 将来いつ、どんなときに災害が起こっても、適確に行動できるよう、計画的・継続的に学びや実践を確実に積み上げていくようにする。

講義の様子



実施状況の写真等データは、3枚程度とすること。